

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201778		
法人名	社会福祉法人 愛知慈恵会		
事業所名	グループホーム 田苑そよ風		
所在地	愛知県一宮市萩原町東宮重字蓮原24番地1		
自己評価作成日	平成26年 9月17日	評価結果市町村受理日	平成27年 4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=2372201778-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①清潔・安全・落ち着ける雰囲気努め、いつも明るく働くことができるように、自らの健康管理には、特に留意しながらチームケアを行っています。</p> <p>②家族様・来訪者には敷居の低い施設をめざし、利用者とゆっくり過ごす事ができるように配慮しています。</p> <p>③利用者には「人として生きる」事を支援するという視点に立ち専門職という意識を持ってケアにあっています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>家族の協力が素晴らしい。家族アンケートには、忙しく立ち振る舞う職員の健康を気遣ったり、支援の充実に感謝する励みの言葉があふれていた。スプリンクラーの工事期間中は、利用者にホーム外に出てもらって「外出支援」でのいただが、この時にも家族の力強い協力があった。重度化が進んだ現状を察して、家族の側から、「無理に外出しなくてもいい」、「全員一緒に出なくてもいい」等の理解ある言葉も届く。</p> <p>外出支援に限らず、利用者を中心にして、ホーム(管理者、職員)の支援と家族の対応とが同じ方向性をもって動いている。それらの相乗効果によって、ホームの支援はますます充実したものになっていく。その中心には「利用者の笑顔」があった。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認め合う気持ち・ゆとり・穏やかな生活	ホーム独自の理念「認め合う気持ち・ゆとり・穏やかな生活」の下、日々の支援の中で意識し、職員会議の場等で具体的実践がなされているか常に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の福祉施設行事(運動会・秋祭り)に参加 ・地域のお祭(はだか祭・七夕まつり)や相撲部屋力士の訪問交流会参加 ・利用者の霊苑に関する管理者との関わり	地域の祭り等に参加し、併設施設との合同の行事には地域の方々も招待している。中学・高校・大学と実習生やボランティアの受け入れを行う等、地域との交流を積極的に進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティアの受け入れを積極的に行っている。 ・月1回の地域の喫茶外出や理美容院とのふれあいの場を持つようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・家族が知りたいであろう内容を、出来るだけ報告するようにしている。欠席家族には会議内容を送付し確認してもらっている。	利用者・家族・市職員・地域包括支援センター・地域代表に加えて法人職員も参加している。利用者への詳細な支援状況を報告し、参加者から質問・意見・要望・提案が出され、双方向の意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会などで、市職員、包括職員からの適切な助言と指導、それに対する家族の意見なども交えた活気ある内容で進行している。	運営推進会議には市職員も参加している。積極的に利用者の生活状況や家族の思い等を伝え、情報交換を通して運営や現場の実情に即した指導やアドバイスを受けながら、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・危険回避のため車いすベルトを使用していた利用者の身体拘束も解除(平成26年5月)することができた。施設からも、外部・内部研修を多く取り入れてもらえ利用者の安全に向けて、勉強する環境を作ってもらっている。	身体拘束の内容と弊害について、研修・勉強会を通して職員間で共有・確認を行っている。安全を確保しつつも常態化せず、見守りながら自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・法人研修会にて虐待防止法の勉強会に参加し、ワーカー会議において伝達を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所前に契約書や重要説明書などの書類をもとに、ゆっくり話し合う機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時には出来るだけ利用者との時間を楽しく過ごせるように職員を交えた接待を行い、家族会には、家族間のやり取りの中、要望や意見を聞き逃すことなく、それらを運営に反映させている。	年3回の家族会では、職員の手料理でもてなしながら、利用者や家族が要望や意見を表せる機会づくりを行う等、職員は常に話しやすい環境を整え、意向や気づき等を記録して運営に反映させている。	スプリンクラー工事の期間中は、外出支援に家族の協力があつた。この良好的な協力体制が継続することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ワーカー会議や個人的にも意見が言えるような雰囲気や努力、職員への解答が必要な場合には、上司や施設長からの助言を頂きながら適切な対応を行っている。	会議では職員一人ひとりに意見が求められ、職員も活発に意見交換できる場となっている。職員間の勤務体制も個々の状況に配慮し、馴染みの職員による安定した支援に繋がっている。	時として、退職したOBがボランティアとして応援に入ることもある。「家族の協力」同様、退職者との友好的な関係の継続を望みたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の不調サインに気付いた時には、上司にタイムリーな報告を行い適切な対応をしてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・定期的に法人内外研修を前向きに検討し取り入れてくれている。 ・研修報告内容を職員全員に伝達し共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・一宮市の施設部会に参加している。 ・法人内のグループホームと絶えず意見交換の場を持ち勉強会や人材育成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に事前見学をして頂き、利用者の気持ちや家族の要望など聞く様にしている。 ・事例を用い、出来るだけ家族の不安解消に繋げられるようにお話をさせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の方が一番困っている事、不安な事など話しやすいように家族の方だけと話す時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所判定の時点で、利用者・家族・在宅部長・ケアマネージャー・介護職員・グループホーム管理者を交えた、さまざまな職種にて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の限界点を見据えつつ、出来る事を探りながら応援する、「行動支援」を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時・家族会には必ず家族・利用者を変えた共通の話題で過ごしてもらえ様、雰囲気作りを努めている。また、本人にとっての幸せが何かを家族と共に話合う機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族協力による外出・外泊ができています。 ・退所されたご家族が入所者の面会者となったり新しい馴染みの方(外部の方)も増えつつある。	退職職員がボランティアとして来訪する等、馴染みの関係の継続も増えている。重度化が進んで盆栽の手入れができなくなった利用者が、自分が育ててきた盆栽をゆっくり鑑賞できる生活支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・本人の居心地の良い場所や周囲との関わりを考慮した配膳場所など絶えず工夫したり、他者の食事介助を見る事により思いやりが生まれ、利用者同士お互いに支えあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所された利用者家族より電話や来訪などでの介護相談などに応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者の会話・表情の読み取りに注視している。 ・家族の要望、気づきがあれば共有ミーティングノートに記載・職員会議で話合うなど、改善や検討に努めている。	職員全員が利用者の思いに関心を払い、気づき等を記録に残している。また、家族からも利用者の意向を聴き取りながら、職員会議で意見を出し合い意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時のフェイスシートと家族からの聞き取り情報・入所してからの本人の生活サイクルに合わせたケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・朝の申し送り・共有ミーティングノート・職員会議を活用しながら、暮らしの気付きや変化を職員間で伝えあう事で状況に応じた対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人・家族からの要望をお聞きしたうえで、現状に即した支援内容を、担当職員に考えてもらう。そして、再び家族を交えた内容をもとに介護計画を作成している。	見直しは6ヶ月を基本にして、家族・担当職員も加わり意向を確認しながら作成している。毎月のモニタリングで、実施状況を確認検証、状態変化があれば計画の見直しもを行っている。	定期的な見直し、状態変化に伴う見直しの他に、「意向の変化」による見直しにも配慮してほしい。「個別ケア」の実践は、「その人らしさ」の感じられる計画作成から始まる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の申し送り・ミーティングノート・業務日誌などの情報をもとにカンファレンスを行い現状に即した介護計画がどうかを見極めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族の要望に応じられよう、上司に相談しながら出来る限りの支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・音楽療法・エレクトーン教室・学生ボランティア・慰問・地域の行事参加などを積極的に受け入れ関わりを持つことで施設だけの生活にとどまる事なく豊かな暮らしを楽しんでもらえるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医による往診(月2回以上)と年1回の健康診断を受けている。また、マッサージや歯科往診もあり他科・専門医受診には職員が送迎を行っている。	利用者側と医師が契約を行い、現在利用者全員が協力医の往診を受けている。他科・専門医受診が必要な場合は、職員が付き添って受診している。診療の情報は家族・医師も含めて共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師不在のため往診時には協力医からの指示もとケアにあたっている。また、電話による連絡・報告・相談を絶えず行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・管理者が関係者に対して情報交換や相談を行い出来るだけ早い退院ができるよう努めている。入院準備や定期的な見舞いを行うことで病院関係者との関わりを多くするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・看護師が不在である事を説明・理解していただいた上で「出来る限り施設で暮らしてほしい」という思いでケアにあたっているが、本人にとっての最善方法を検討しながら話し合いを重ね、医師の判断を含め方針を決定している。	重度化に伴う利用者・家族の意思確認を事前に行うと共に、重度化に際しては医師と家族の話し合いを重ね、医師の判断も含めて方針を決めている。職員も方針を周知し、その内容に従ってホームとしてできる限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・2014年救急救命処置(AED含)講習に参加し職員全員が周知できるよう伝達を行っている。 ・施設独自の緊急マニュアルを作成するなど体制も整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・併設施設の指導の下、年2回の消防災害訓練と定期説点検を欠かさず行っている。 運営推進会の場でも報告をし地域・家族からの助言も参考にし出来るだけ現状に即した訓練をおこなっている。	併設の特養と合同で年2回の防災訓練(消防署立合い・夜間対応)を実施している。隣接の24時間操業の一般企業との防災協定の話しも進めている。併設特養での備蓄の他、ホーム単独の備蓄も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者の思いにや気持ちを察した言葉掛けを職員間で考え、やさしい笑顔で接するように努めている。	声掛けの基本は「さん」付けとし、その人の世界と一緒に入り、スピーチロックに気を付け、自然な笑顔で穏やかに見守り、利用者の尊厳を損なわない言葉づかいに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・安心・安全確保の下、常に自己決定で生活できるように働きかけている。 ・本人にとっての理由付けがあると理解し、自らの行動に委ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一日の流れはほぼ決まっているが、利用者のペースに合わせた声かけ、誘導を行っている。 ・本人の希望に合わせたケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・利用者が出来るだけ、洋服を自分で選び、着替える事ができるように担当職員が衣替えを行っている。自己決定できない利用者には、予め手の届きやすい場所に設置するなど工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・メニューが偏らない工夫を行い季節料理・行事に合った料理を提供している。食欲低下の利用者には嗜好食を用い食事を楽しんでもらえるようにしたり、懐かし味や手作り料理には、こだわっている。	食事の準備は職員で行っているが、利用者の好み等考慮しながら職員もテーブルを囲み、ゆったり会話したり、介助しながら同じ料理を楽しんでいる。食後、利用者の一人が楽しそうに食器拭きに精を出していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事・水分チェックを行い栄養確保のための工夫や嗜好食を用意しておくなど配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食の歯磨き・嗽を促し、できないところは手伝うなどしている。 ・歯科受診を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレでの排泄支援を基本としている。利用者と家族の金銭負担を考え自立の維持、失禁の減少に努めている。	重度化に伴い、オムツ対応の利用者も出ているが、一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、失禁の多い利用者もできるだけパンツで対応し、トイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・申し送りを通じて心身状態を把握し個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・平均回数(13~14回以上)にこだわらず排泄時の汚染や気分によっては続けて入浴するなどしている。また、入浴中の会話は利用者とのコミュニケーションツールとして本音が聞ける場所である。	利用者の重度化も進んでいるが、状態に応じて職員数を増やし(2名での入浴介助)、馴染んだヒノキの浴槽での入浴支援を続けている。利用者は職員との会話やガラス越しの坪庭を眺める等、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・定期的な昼寝の習慣を持ってもらい体力の温存と一日のサイクルを整えられるよう朝夕の体操を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人別薬ファイルを作成し、家族・職員がいつでも見れるように保存している。 ・症状や状態変化がある場合には、往診ノートに記載し、すぐさま医師に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・どんな時に輝いているかなどを職員間で情報共有に努め本人の役割や楽しみを応援・支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・家族の協力の下では、外泊・外出ができています。 ・出来る限り、希望に沿った外出を行うように努めている。	お弁当を持ってのドライブや、月1回程度の喫茶、季節ごとの外出、縁側での日向ぼっこや散歩等、利用者の希望を把握しながら、できる限り利用者全員の外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には、管理者が管理しているが、家族の了解がある方は、所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望者には電話使用が可能である。 ・年賀状のやりとりや季節の絵葉書(レクリエーション)など作成時には、送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・庭には、花壇を作り季節の花を植え、中庭にはさまざまな鳥が巣を作る。生き物が身近に感じられる環境である。廊下・リビングの照明にもこだわり、和の木造建築に合った居心地良い色合である。	共用空間は清潔に保たれ、各場所にソファやテーブル・イス、建物の内外に花木等が配置され、ゆったりと落ち着いて過ごせる配慮がある。また、季節毎に変わる随所の暖簾は癒しを醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビング以外に玄関、廊下にソファを置き、戸外にはベンチを設置している。庭のところに花壇を作り、いつでも花を楽しめるように手入れを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の使い慣れた家具を配置、し自分の部屋であるという認識をもってもらえており、一番落ち着く場所として過ごされている。	写真や馴染みの家具等、利用者の好みに合わせた居室づくりの支援をしている。居室には縁側があり、芝生や木・花・野鳥等を眺めて過ごしたり、そのまま庭に出たり等、安らぎの場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレには【雪隠】暖簾をかけ風呂場には【湯】の暖簾をかけ食卓には花を飾り、玄関・廊下やキッチンの見通しを良くするなど工夫して職員の姿がいつも見える場所にデスクを置いている。		